

# 平成十六年歌会始御製御歌及び詠進歌

幸

御製

人々の幸願ひつつ国の内めぐりきたりて十五年経つ

皇后陛下御歌

幸くませ真幸くませと人びとの声渡りゆく御幸の町に

皇太子殿下

すこやかに育つ幼なを抱きつつ幸おほかれとわが祈るなり

皇太子妃殿下

寝入る前かたらひすごすひと時の吾子の笑顔は幸せに満つ

文仁親王殿下

白神のぶなの林にわが聞きし山幸護る智恵の豊けさ

文仁親王妃紀子殿下

藻場まもる国崎の海女ら晴ればれと得し海幸をわれに示せり

清子内親王殿下

またひとり見上げて笑まふつゆの間のひとときの幸大き虹いづ

正仁親王殿下

手足のわざままならぬ子ら見まもりて幸おほかれとわが祈るなり

正仁親王妃華子殿下

家族みななごみ笑まへる汽車の旅ここに幸ありと見つたのしき

崇仁親王妃百合子殿下

大漁旗風にはためき海の幸のせて今しも船かへり来る

寛仁親王妃信子殿下

振袖をきよそひて立つ娘ら二人幸おほかれとわが祈るなり

憲仁親王妃久子殿下

木もれ日に風かよふ朝君とゐし身の幸ひはこみのよみがへりくる

御製

人々の幸願ひつつ国の内めぐりきたりて十五年経つ

天皇陛下には、ご即位後も日本の各地をご訪問になり、平成元年以来この十五年間で、全ての都道府県をご訪問になりました。ご訪問市町村数は四〇一、ご移動距離は約十二万キロ、地球三周に当たります。この御製は、国民の幸せを祈られながら重ねられた旅の十五年を振り返ってお詠みになったものです。

皇后陛下御歌

幸くませ真幸くませと人びとの声渡りゆく御幸の町に

陛下のご手術で明けたこの一年にも、両陛下は北海道から奄美大島にいたる沢山の旅をなさいました。

皇后陛下の御歌は、行幸啓の先々で陛下のご健康とお幸せを願う人々の声が、お車に添い町を渡っていく様をお詠みになったものです。

皇太子殿下

すこやかに育つ幼なを抱きつつ幸おほかれとわが祈るなり

皇太子殿下には、すこやかに満二歳になられた愛子内親王殿下のご成長を、やさしく見守っておられます。このお歌は、内親王殿下が、今後ともすこやかに成長され、幸多い人生をお送りになられるように、との願いをこめてお詠みになられたものです。

## 皇太子妃殿下

寝入る前かたらひすごすひと時の吾子の笑顔は幸せに満つ

皇太子妃殿下には、ご公務の傍ら、愛子内親王殿下のご養育に心をくぐりてこられ、特に、夜の内親王殿下のお休みに、ご一緒に過ごされる時間を大切にしてこられました。

このお歌は、昨秋、東宮御所を離れてのご公務からお戻りになられた妃殿下が、内親王殿下のお休み前の一時、ベッドの傍らでいろいろなお話をされた折、内親王殿下があどけなく幸せそうな笑顔をみせられたことに安堵なさり、将来にわたっての内親王殿下の幸せを願って、お詠みになられたものです。

## 文仁親王殿下

白神のぶなの林にわが聞きし山幸護る智恵の豊けさ

一昨年（平成十四年）の秋、秋篠宮殿下は総合研究大学院大学の共同研究で、白神のブナ林を訪問されました。そして、マタギの人たちの自然利用とそれに伴う資源保護についての話をお聞きになりました。山林に関わりを持つ人々の生き物に対する知識の豊かさに深く関心を持たれ、その折の気持ちを詠まれたお歌です。

## 文仁親王妃紀子殿下

藻場まもる国崎の海女ら晴ればれと得し海幸をわれに示せり

昨年（平成十五年）の秋、秋篠宮妃殿下は秋篠宮殿下、眞子内親王殿下と一緒に三重県鳥羽市にある国崎をご訪問になりました。国崎は御料鰯調製所があり、海女がとった鰯をかつて漁師をしていた人々が神宮に献上する熨斗鰯をつくっています。妃殿下には、海女が資源をとり尽くさぬよう、古来の漁法で魚介類が育つ藻場を大切にしている話をお聞きになりました。その折に、海女がとった海の幸を晴れやかな笑顔で披露したことを思い出しながら、詠まれたお歌です。

清子内親王殿下

またひとり見上げて笑まふつゆの間のひとときの幸大き虹いづ

梅雨の間の雨上がりの空に掛かった大きな虹に、一人また一人と気が付いて、その一時の幸せを喜ぶ風景をお詠みになったお歌です。

正仁親王殿下

手足のわざままならぬ子ら見まもりて幸おほかれとわが祈るなり

正仁親王妃華子殿下

家族みななごみ笑まへる汽車の旅ここに幸ありと見つたのしき

崇仁親王妃百合子殿下

大漁旗風にはためき海の幸のせて今しも船かへり来る

寛仁親王妃信子殿下

振袖をきよそひて立つ娘ら二人幸おほかれとわが祈るなり

秋の園遊会の折、成人を迎えられたお二方の両女王殿下がご出席になられ、御身大きくなられたお二方の幸せを祈られたお歌です。

憲仁親王妃久子殿下

木もれ日に風かよふ朝君とゐし身の幸のよみがへりくる

昨年（平成十五年）赤坂御用地内をご散策中に詠まれたお歌です。

召人 大岡 信

いとけなき日のマドンナの幸ちやんも孫三たりとぞeメール来る

選者 安永 露子

ふかぶかと礼することの幸せに揺れてしばらく秋草のなか

選者 岡野 弘彦

人みなのおのが幸さち詠みいでしうた選びをへ年あらたまる

選者 岡井 隆

朝暎は雲を灼きつつ差して来ぬ幸せのやうにすこしおくれて

選者 島田 修二

見はるかすうなさかあをく道なして諸びと幸くとはに平和なれ

選者 永田 和宏

しら梅はしづかに時を巻きもどすかの幸ひに君と子を率て

選歌 (詠進者生年月日順)

兵庫県 金栗 美智子

領けば足らふ八十路の幸せに夫の視野へ挿す花蘇芳

愛知県 南部 茂樹

授かりし羽その幸を乱れ飛ぶひらりきらりとおほむらさきは

熊本県 森田 良子

まだ花も貴女もわかり幸せと盲ひゆく母の哀しみは澄む

ブラジル国  
パラナ州 間嶋 正典

幸せが一步の先にあるごとく駿馬生き生き耕してゆく

宮城県 大和 昭彦

一本の樹となりてあれ幸せは春の大地を濡らしゆく雨

埼玉県 岡部すず子

夢に来ていま幸せかと問ひ給ふ母の若さの眩しかりけり

福岡県 赤司芳子

一人居る幸せもありひとりなる淋しさもありて子と離り住む

岡山県 藤原廣之

鳥語木語さきはふ村の朝山に鉦研ぐ杉はいま伸びざかり

奈良県 東庄日出子

人の世の幸さいちみまもりし廬るしやなぶつ舎那仏その大屋根に月さえにけり

大阪府 松本みゆ

彼と手をつなげることが幸せでいつも私が先に手のばす

佳 作 (詠進者生年月日順)

富山県 堺 清治

妻ありし幸の日の日々遠し写真とともに今日は来たりぬ

福岡県 清水暎凰

春霞む空のかなたに幸の国あるごとく鶴帰りゆく

長野県 窪田アヤ子

ひたひたと水の入りゆく田の面にさざ波はよす五月の幸を

栃木県 杉田浩二郎

手押車に露けき畑の幸載せて妻帰りくる朝焼けを背に

秋田県 堀江愛子

君とゐる幸せのとき短くて夕日の海に心残し来

愛知県 加藤美佐枝  
釉薬をたつぷり筆に含ませて幸の一字大皿にかく

三重県 野呂と志  
伊吹山のいただきにゐて今日の幸花の中より夫に電話す

東京都 松浦美智子  
「海の幸」ここに描きしか布良めらの海黙す漁師が網をつくらふ

大阪府 北口喜代  
新藁で幼らがつくる注連飾ややゆがめるも幸よぶかたち

静岡県 桑原信子  
執刀の医師は子の胃を指し示し幸運でしたと微笑みくれぬ

長野県 久保田幸枝  
宿題の『幸福論』にとり組みし夏の記憶は青葉のにほひ

大阪府 青山千春  
幸せのたとへば朝のキッチンのパン焼く匂ひ卵割る音

奈良県 今田亘子  
寺の後継ぐとふ息子と連れ立ちて幸せさうに出かけゆく夫

大阪府 清水エチ子  
うれしげに振りむく笑顔の幸せを受けてゆつくり車椅子押す

兵庫県 山田恵子  
読むたびに絵本のあをむし蝶となり子の幸せの瞳輝く

大阪府 上田加奈  
グラウンドで振り返つたら君がゐた心が弾む幸せの午後